

# 2015年7月20日 掲載 物流ニッポン

## 第一貨物

# ビッグデータで効率化

## 曜日・月ごとの需要予測

第一貨物（武藤幸規社長、山形市）は2016年3月期中をメドに物流情報システムを再構築し、17年3月期から本格運用する。輸送需要を予測する「PSS（ピーク・サービス・システム）」と配達時間を開示する「DST（デリバリー・サービス・タイム）」の二つのシステムで、業務の効率化・合理化などに役立てる。同社では「ビッグデータを単なる管理資料としてではなく、輸送品質向上や業務の改善・効率化のために積極活用していく」（武藤社長）考えだ。

（高木明）

## 得意先に配達情報開示

二つのシステムは、3年前からスタートした「リニア・プロジェクト」の一環として、再構築されるもの。物流の現場や事務部門での生産性を高めることで、輸送品質の改善や労働時間の短縮などにつなげていく。

PSSは、貨物追跡情報システムで蓄積されたビッグデータを活用しながら、曜日・月ごと、更には方面別の輸送量（需要）などを事前に予測。システムの精

度が高まれば、各店所の車両や人員配置の最適化が図られ、配車管理の一元化も可能となる。

また、DSTは各得意先に対し「今、どこ」「いつ、何時に配達（完了）」といった詳細な情報を開示する。「配達日・時間などはあらかじめ分かっているが、現状では開示する体制になっていない」（武藤氏）

今期は①取引条件の改善（適正運賃の收受）②待遇の更なる改善③合理化・効

・6倍を目指している。

武藤氏はリニア・プロジェクトについて「既に過去8回のバージョン・アップを経てきた。二つのシステムが機能すれば、ち密な物流管理・運営とともに、改善すべき事柄なども明らかにする。IT（情報技術）の積極活用で経営基盤を一層強固なものにしていく」と話している。

率化の実現——に取り組むことで、売上高696億円（前期比2.0%増）、経常利益8億8500万円（12